

保育実習後の大学生から見てくる学びと展望(2) －実習後のアンケート調査より－

西田 雅美

Consideration regarding the increase in special needs classes
Masami NISHIDA

キーワード：保育実習 模擬保育 保育技術

概要：本実習において、多くの学びと気づき、今後への希望や努力目標点が伺われた。実習結果に満足している学生のほとんどが実習前に努力の跡が見られ、その結果が各項目において、「大変よくできた」、「よくできた」と評価している。その結果を通して新たな気づきや、今後何をすることが自分にとって大事なことなのか、保育者を目指すものとしての新たな意欲を述べている。本年度実施した『実習後の振り返りアンケート』から注目したい点は、3年生、4年生ともに「ペープサート・(パネル・エプロン・手袋)シアター」の実施と、「ピアノの弾き歌い」の実施が結果として納得いかないものであったと答えていたことである。本人の努力不足もあったかと思われるが、実習園の都合などもあり実施が不可能だったことも、実習後の反省点から明らかであった。結果から、学生自身が多くの学びを得て次のステップに向かっていることも反省点の中にあった。今後は本学で保育士資格取得を得て保育関係の現場で生かしていくと共に、さらに、ステップアップした資格取得も考えていく二刀流、三刀流の時代ではないかと考える。保育士養成校として、保育の基本的知識とともに保育技術を身に付けるために、1年次から関係科目において教材製作や実践の機会を多く設定し場を踏む経験が必要であることが示唆された。

緒言

我が国は出生率の低下が続いてから将来に向けて「少子・高齢化」と言われ始めた。その間、高齢者の介護問題に関しては、2000（平成12）年に介護保険制度が導入され今日に至っている。

他方、少子化対策にも様々な施策が講じられてきた。1994（平成6）年12月「エンゼルプラン」が文部・厚生・労働・建設の4省（当時）の大臣で合意された。少子化の進展を受け、子育て支援のための総合計画であった。4年後の1999（平成11）年に「新エンゼルプラン」の策定に始まり、それ以降も2002（平成14）年の「少子化プラスワン」、2003（平成15）年に「次世代育成支援対策推進法」及び「少子化社会対策基本法」が成立するなど、子育て支援対策の整備が図られてきた。2012（平成24）年には、「子ども・子育て関連3法」が成立し、2015（平成27）年4月から新制度の本格的実施が始まった。子ども・子育て支援のシステムの構築と同時に、子どもたちを支える専門職の養成が必要とされてきた。近年の保育現場において、子ども達の中には保育者の支援を必要とする子ども達の増加が見られる。また、保護者の

共働きの増加から、保護者の子育てを支援するため、一時保育、延長保育、預かり保育、病後児保育、休日保育などが実施されている。

子育て支援に関わる専門職は、低年齢の乳児・幼児の場合であれば保健師、助産師、看護師などの保健の専門職である。就学前の幼児であれば保育士（保育教諭）がその業務に当たるのが妥当と思われる。

1999年11月に「男女雇用機会均等法の改正」で、それまで保母と呼ばれていたが保育士と改名された。

2003（平成15）年11月に児童福祉法改正により国家資格の取扱いとなり、保育士は保育することだけでなく、保育全般の相談に応じる重要な資格となっている。保育士養成校では2008（平成20）年の保育所保育指針の改定・告示化後に行われたカリキュラムの改正で、社会福祉に関する科目がより相談援助への拡大を意識したものへと変更された。また、保育所は児童虐待を受けた子どもに対する支援として、入所する児童の選考に際して、児童虐待防止や家庭の支援を積極的に行うように考慮することが法律に明記された。このよ

うな背景により、保育士は児童虐待の早期発見や虐待を行うその保護者と子どものケアの役割も期待されている。今後も保育士にはソーシャルワーク（社会福祉援助技術）的な視点と働きが求められていくと考えられる。

学生には、保育士資格とは、このように一生を通して生かせる国家資格で専門職であることを今一度胸に受け止め、机上での学びと実習での学びをしっかりと身に付けてほしいと願うところである。

目的

昨年度に引き続き、今年度保育実習（保育所）に臨む学生を対象に、事前指導時の取り組みを含め実習後にどのような学びがあったのか、「実習後の振り返り」アンケート調査を行うこととした。実習後の学びや課題、実習までに備えるべき事項について把握と傾向をみるとともに、今後の実習指導や関係科目の在り方について検討及び改善に繋げることを目的とした。

方法

令和6年度、南九州大学人間発達学部子ども教育学科3年生19名、4年生7名に対して、保育実習（ⅠA・Ⅱ）終了後「振り返りアンケート調査」を実施した。実習期間は令和6年8月19日（月）から令和6年9月4日まで（台風接近による自宅待機期間を含む）である。学生には、実習後の振り返りをするすることで、新たな学びや次のステップへの自信となることを伝え、調査結果は今後の保育実習の改善や研究の一環として使用することを話し理解を得た。

1. アンケートの内容

1) 各4段階で1つの選択とした

- (4)大変よくできた (3)よくできた
(2)ほとんどできなかった (1)全くできなかった

2) 選択理由を簡単に述べる

3) 質問項目

- (1)事前に立てた実習の目標達成度は
(2)「手遊び」の実施は
(3)「絵本（紙芝居）の読み聞かせ」の実施は
(4)「ペープサート、パネル・エプロン・手袋シアター」などの実施は
(5)「ピアノの弾き、歌い」の実施は
(6)「指導案作成」について

- (7)「研究保育（責任実習）」の実施は
(8)実習全体の振り返りと今後に向けた感想
以上8項目である。

結果

保育実習は、学生が日頃机上で学ぶ保育に関する知識や技術を、実際の保育現場において自らがそれらを実施、体験することにより、その相違点や、納得する事柄を確認することで、さらにその学びを深めることである。今回も学生が多くの学びを得たことが分かった。

3年生実習のアンケート結果

1. 事前に立てた実習の目標達成度（図1）

「大変よくできた」を選択した学生は37%（7人）で、その理由としては、『事前に立てていた目標が達成された事や、日々の達成度を確認しながら、その原因を確認しながら解決策を考えながら取り組んだこと。また、毎日、保育者の子どもへの援助の姿を観察しながら学び、園で何が行われているか子どもの姿、接し方を学び積極的に取り組めた。』などと述べていた。次に、「よくできた」を選択した学生は、58%（11人）で、その理由としては、『子ども達と積極的に関わり、保育者の子どもへの関わり方が学べたから、ほとんどの目標達成はできたから、また、子どもの成長は読み取れたが、保育者の業務についてはもう少し学びたかった。ほかには、年齢に合わせたコミュニケーションや関わり方がまだできなかった』であった。「ほとんどできなかった」を選択した学生は0%、「できなかった」を選択した学生は5%（1人）で、その理由として『3歳未満児に合った援助ができなかったから』などと述べていた。

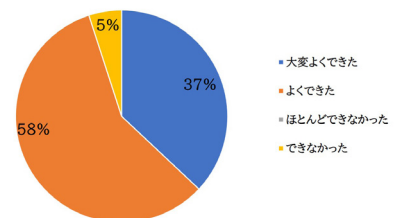


図1 事前に立てた実習の目標達成度（n = 19）

2. 「手遊び」の実施（図2）

「大変よくできた」を選択した学生は53%（10人）で、その理由としては、『子ども達が集中してできたから、発達段階に合わせ声の大きさ・スピードを変化させながら実施できたこと、自分か

ら積極的に申し出て実施した事、場面に応じて静かな手遊び、盛り上げる手遊びと工夫できたこと、手遊びのレパートリーを増やし、発達段階に合わせて実施できた。』と述べていた。「よくできた」を選択した学生は21%（4人）で、その理由としては、『子どもの反応を見ながら実施することはできた、全員の子ども達に聞こえるように出来たらまだよかった、読み聞かせの前だけにしか実施できなかったから』と述べていた。「ほとんどできなかった」を選択した学生は16%（3人）で、その理由として、『手遊びの種類が少なくて子どもたちを飽きさせてしまった、“はじまるよ”しか浮かばなかった、自由遊びの時間しか実施できなかった』と述べていた。「できなかった」を選択した学生は10%（2人）で、その理由としては、『手遊びを実施する予定だったが、先に絵本を読みでしまい実施できなかった、知識不足や練習不足で実施できなかった』などと述べている。

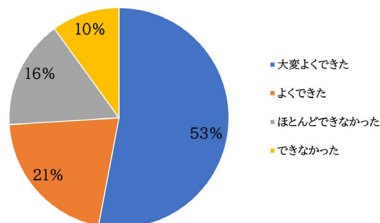


図2 「手遊び」の実施 (n = 19)

3. 「絵本（紙芝居）の読み聞かせ」の実施（図3）

「大変よくできた」を選択した学生は63%（12人）で、その理由としては、『子どもたちが興味を引く読み方や、絵本の選択ができた、声の抑揚や強弱の配慮ができた、事前に読み方の練習をしていたことが良かった、園内の絵本だけではなく自分の所有する絵本も持参して読んだ、朝の会・日課活動、帰りの会と何度も読ませて頂いた』など努力や工夫が見られた。「よくできた」を選択した学生は37%（7人）で、その理由としては、『子ども達が聞き取りやすい声で読むようにした、担任の先生にアドバイスを頂いたり、褒めて頂いた、読むことはできたが絵本を持つ高さが顔の高さではなかった、読み方で工夫する点や留意点が学べた』などと述べていた。「ほとんどできなかった」と「できなかった」はどちらも0%だった。

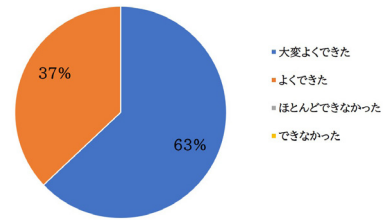


図3 「絵本・紙芝居の読み聞かせ」の実施 (n = 19)

4. 「ペープサート、パネル・（エプロン・スケッチブック・手袋）シアター」の実施（図4）

「大変よくできた」を選択した学生は10%（2人）で、その理由として、『手袋シアター、自己紹介カードが上手に実施できた、スケッチブックシアターを実施し、子ども達の待ち時間を楽しむことができた。』などがあつた。「よくできた」を選択した学生は5%（1人）で、その理由として、『スケッチブックシアターの実施で子どもたちの反応が良かった。』と述べた。「ほとんどできなかった」を選択した学生は32%（6人）で、その理由として、『上手く言葉がけや展開ができなかった、ペープサートの実施だけ部分保育で行った、また、準備していたが実施する機会がなかった』と述べた。「できなかった」を選択した学生は53%（10人）で、その理由として、『手袋シアターなどを準備して行ったが実施できなかった、手袋シアターしかできなかった、実施の機会がなかった、知識不足で必要性も何も知らなかった』などと答えている。

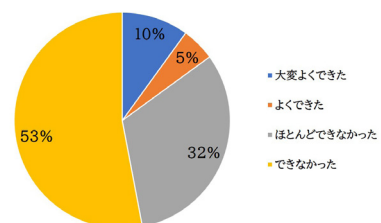


図4 「ペープサート・パネル（エプロン・スケッチブック・手袋）シアター」等の実施 (n = 19)

5. 「ピアノの弾き、歌い」の実施（図5）

「大変よくできた」を選択した学生は21%（4人）で、その理由として、『実習前に練習した努力が実って、子ども達の歌うペースに合わせて弾くことができた、1, 3, 5歳児もクラスで実施できた、朝の会で季節の歌、「仏参の歌」の伴奏もできた、事前に楽譜を頂いていたので練習していたので弾くことができた。』と述べていた。「よくできた」を選択した学生は21%（4人）でその

理由として、『1日の園生活の中で何回も弾くことがあった、両手では弾けなかったが片手で弾いた、努力して行ったが何度も間違えた、ピアノは弾けなかったが歌は子ども達と一緒に歌えた』と答えていた。「ほとんどできなかった」を選択した学生は47%（9人）で、その理由として、『準備していたが弾く機会がなかった、途中で止まったり、音を間違えたりしていた、みんなで歌う機会がなかった』と答えていた。「できなかった」を選択した学生は11%（2人）で、その理由としては、『弾く機会がなかった、思うように弾けなかった』などと答えていた。

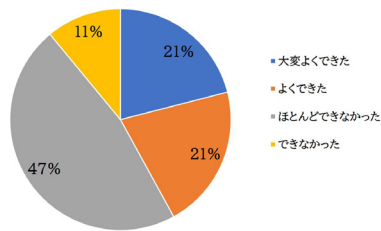


図5 「ピアノの弾き、歌い」の実施 (n = 19)

6. 「指導案作成」について (図6)

「大変よくできた」を選択した学生は26%（5人）で、選択の理由として、『様々な場面を想定して作成をした、担当保育者に作成後に確認して頂いた、毎日まとめてしっかり反省して担当保育者にアドバイスを頂いた、クラスの状況をしっかり把握して、「どうしたら楽しめるか」を考えて意欲的になれるような援助を考えた、分かりやすく丁寧に書いたので、担当保育者に褒めて頂いた』などと述べている。「よくできた」を選択した学生は37%（7人）で、選択理由として、『年齢に合った指導案作成ができ、導入から終末まで楽しめる内容となった、担当の指導者に事前に指導案を見て頂きご指導を仰いだ』と答えている。「ほとんどできなかった」を選択した学生は5%（1人）で、選択の理由は、『実態に合った内容ではなく、提出日のぎりぎりになり反省している。』と答えている。「できなかった」を選択した学生は32%（6人）で、選択の理由は、『細かく書いたつもりだったが、創造面や配慮面が足りなかった、年齢に合った指導案の内容ではなく、工夫や配慮が足りなかった、全く作成しなかった』という答えだった。

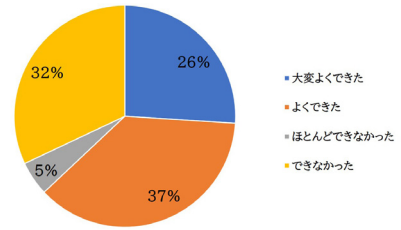


図6 「指導案作成」について (n = 19)

7. 「研究保育（責任実習）」の実施 (図7)

「大変よくできた」を選択した学生は21%（4人）で、選択の理由として、『子どもたちが楽しめるように実習前から工夫していた、保育を実施した際に子どもたちが喜んで楽しんでいたので、環境構成で安全面や安心して子どもが取り組めるように、声掛けや援助を行った、自分の中では先生方の前で堂々とできたと思ったから』と答えていた。「よくできた」を選択した学生は16%（3人）で、選択の理由としては、『一応ピアノは弾けたが、上手ではなかった、「集団」と「個」の違いをもっと考えるべきだった、落ち着いてできたが反省点が多い、一応子どもたちが楽しんでいたので良かったと思った』などの意見だった。「ほとんどできなかった」を選択した学生は16%（3人）で、選択の理由としては、『一応実施できたが予測できない状態があり、全体が見えなくなった、予想外のことが多く起きてそのことに対処できなかった、目の前の子どもだけに目が行き全体を見ることができなかった』などであった。「できなかった」を選択した学生は47%（9人）で、選択の理由は、『研究保育が実施されなかった』であった。

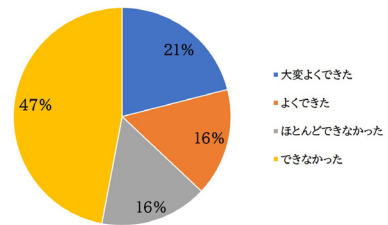


図7 「研究保育（責任実習）」の実施 (n = 19)

8. 実習全体の振り返り、今後に向けての感想

1) 本実習での学び

- ・一人一人の子どもに合わせた援助は難しいと思った。
- ・経験を多くして慣れることが自信になると思った。

- ・縦割り保育の難しさを知った。
- ・環境構成の大切さを知った。
- ・全年齢の子ども達の実習が出来て、保育者としてのやりがいを感じた。
- ・まずは元気で実習が終えられたことが何よりだった。
- ・自分が子どもが好きなことが分かった。
- ・未満児と以上児の関わり方の違いを学ぶことができた。
- ・保育者の援助の仕方や声が毛の仕方を学び、今後自分の完全すべき点分かった。
- ・多くの学びややりがいを感じたので、夢に向かって頑張りたい。
- ・保育者にも質問ができたし、子ども達にも自分の名前を読んでもらって嬉しかった。
- ・気付けばとても良い経験だった、良い保育者になろうと思った。

2) 今後に向けての思い

- ・今後の実習に向け、絵本の読み聞かせの工夫や手遊びのレパートリーを増やしていきたい。
- ・子どもの関り方、保育者からのアドバイスを活かして、今後は園で活用していきたい。
- ・今回の実習で不足だった部分を反省し、より良い保育者になれるように力をつけていきたい。
- ・学びや反省点を今後に活かしたい。
- ・今後は、メリハリのある言動を意識して頑張りたい。
- ・声掛けの仕方や手遊びの種類など課題がたくさん見つかったので、今後に活かしたい。
- ・今後は一人一人に合った関わり方や特性を理解して関わるようにしたい。
- ・保育技術を上げていきたい。

4年生実習のアンケート結果

1. 事前に立てた実習の目標達成度 (図8)

「大変よくできた」を選択した学生は43%(3人)で、選択の理由としては、『園児が安心して過ごせるように笑顔で関わられたことや、保育者として子どもにどう関わるかを知ることができたから。異年齢保育について知ることができ、一人一人に合わせた支援の仕方や配慮について知ったことや保護者支援に関してもその仕方を理解することができた。保育者がどのような声のかけ方をしているかを知ることができ、実際に実践して自分がそれを知ることができた』と答えている。「よくで

きた」を選択した学生は57%(4人)で、選択の理由としては、『子どもたちとは積極的に関わることができたが、保護者支援の方法を知る機会がなかった。保育士としての仕事が理解できたこと。保育者がどのような意図をもって子どもに関わったかを考えながら実習に臨むことができたことや、担当の保育者に質問ができたこと』などをあげていた。「ほとんどできなかった」と「できなかった」を選択した学生は0%だった。

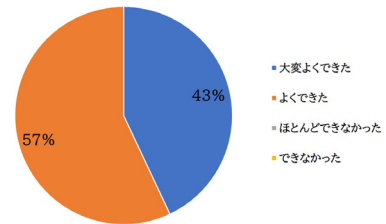


図8 事前に立てた実習の目標達成度 (n=7)

2. 「手遊び」の実施 (図9)

「大変よくできた」を選択した学生は31%(2人)で選択の理由としては、『手遊びを実施することが出来て、子ども達が喜んでくれた。子ども達の好きなキャラクターを選んで実施したので楽しくできた。』と答えている。「よくできた」を選択した学生は61%(4人)で、その理由としては、『子どもたちの反応を拾いながら実施できたし、自分も笑顔で関わる事ができた。全体に向けての実施はできなかったが、1:1のコミュニケーションをとることで実施できた。読み聞かせを始める前に、状態を見ながら手遊びを実施した。実施するにあたり、スピード、間の取り方、場面に応じた手遊びができた』と答えている。「ほとんどできなかった」を選択した学生は8%(1人)で、選択の理由は、『活動の間にしかできなかった』と答えた。「できなかった」を選択した学生は0%だった。

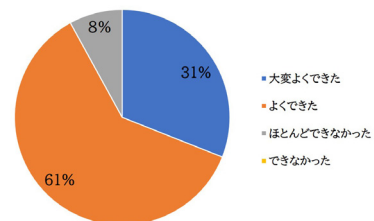


図9 「手遊び」の実施 (n=7)

3. 「絵本(紙芝居)の読み聞かせ」の実施 (図10)

「大変よくできた」を選択した学生は43%(3人)で、選択の理由は、『担当した全部のクラスで実施することができたから。子ども達が、自分

が持って行った絵本を読んでくれて、「新しい本だ」と喜んでくれて、絵本で知った言葉を何度も繰り返し言うてくれたから。絵本を読む前に絵本につながる話をして注目してくれるように努めた』と答えた。「よくできた」を選んだ学生は57%（4人）で、選択の理由は、『毎日、自分が持参した絵本の中から子どもたちに選んでもらって読んだ。子どもと一緒に子どもが喜ぶ絵本を選んで読んだ。担任の先生に読み方を褒めてもらえた。合同保育と未満児のクラスで読ませてもらった』と答えている。「ほとんどできなかった」と「できなかった」は0人だった。

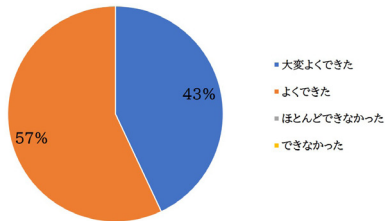


図10 「絵本・紙芝居の読み聞かせ」の実施（n = 7）

4. 「ペープサート・パネルシアター（エプロン・手袋）」の実施（図11）

「大変よくできた」を選択した学生は14%（1人）で、選択の理由は、『季節に合わせて、「紙皿シアター」、「スケッチブックシアター」を実施した』と答えていた。「よくできた」を選択した学生は14%（1人）で、選択の理由は、『ペープサートを使って、動物の画像を作成しクイズを行った』と答えていた。「ほとんどできなかった」を選択した学生は29%（2人）で、選択の理由は、『絵本の読み聞かせではなく「手遊び」に変更した。実施する機会がなかった。』と答えていた。「できなかった」を選択した学生は43%（3人）で、選択の理由は、『実施できなかった』と答えていた。

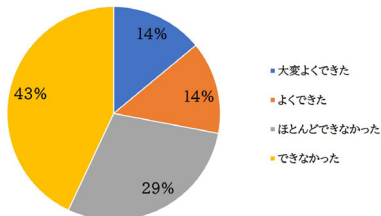


図11 「ペープサート・パネルシアター・手袋シアター」等の実施（n = 7）

5. 「ピアノの弾き、歌い」の実施（図12）

「大変よくできた」を選択した学生は0%だった。「よくできた」を選択した学生は43%（3人）

で、選択した理由は、『ピアノはあまりよく弾けなかったが、歌は頑張って歌った。』と答えていた。「ほとんどできなかった」を選択した学生は43%（3人）で、選択した理由は、『帰りの会だけで弾かせてもらった。途中で止まったり間違ったりしたのでもっと練習したい』と答えていた。「できなかった」を選択した学生は14%（1人）で、選択の理由は、『ピアノ以外の「絵本の読み聞かせ」か、「手遊び」をするように言われた』と答えた。

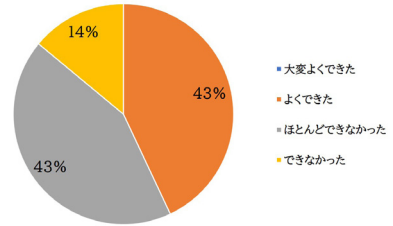


図12 「ピアノの弾き歌い」の実施（n = 7）

6. 「指導案作成」について（図13）

「大変よくできた」を選択した学生は29%（2人）で、選択の理由は、『子どもの様子や援助、配慮をしっかり考えることができた。子どもの興味や姿に合わせて、流れのある内容を考えられた。環境設定や援助を細かく行うことが大事だと分かった』と答えていた。「よくできた」を選択した学生は57%（4人）で、選択の理由は、『室内遊びを考えた指導案にした。部分指導案を担任の先生に見て頂いてアイデアが良いと褒めて頂いた。頑張って期間内に提出したが結構難しかった。環境構成を工夫することで改善できると担任の先生に指導を受けた』などと答えた。「ほとんどできなかった」を選択した学生は14%（1人）で、選択の理由は、『実施する予定でいたが実際にはできなかった』と答えている。「できなかった」を選んだ学生は0%だった。

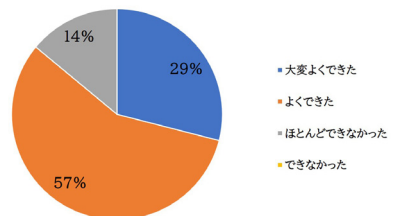


図13 「指導案作成」について（n = 7）

7. 「研究保育（責任実習）」の実施（図14）

「大変よくできた」を選択した学生は43%（3人）で、選択の理由は、『自由保育をしていたので設定保育とは異なる難しさがあった。全体を見

て保育することと、一人一人を見ることを考え、全員が楽しめているかを知ることが大事だと思った。時間通り終わることが出来て担当の先生に褒められた』などと答えていた。「よくできた」を選択した学生は43%（3人）で、選択の理由は、『部分活動は良かったが、配慮面に多くのアドバイスを頂いた。時間配分について気を付けたが難しかった。部分実習をするように指示があった』などと答えていた。「ほとんどできなかった」を選択した学生は0人。「できなかった」を選択した学生は14%（1人）で、選択の理由として、『設定保育を園が実施していなかった』と答えていた。

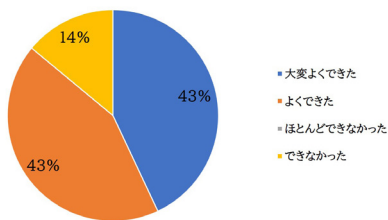


図14 「研究保育（責任実習）」の実施（n=7）

8. 実習全体の振り返り、今後に向けての感想

1) 本実習での学び

- ・ 前回の実習よりも子ども達に対して積極的に動き、笑顔で接することに心掛けた。
- ・ この実習で多くの事を学ぶことができた。
- ・ 前回よりも充実した実習ができ、一人一人違う援助が大切であることが分かった。
- ・ 子どもたちとの関わり方と、保護者との関わり方を学んだ。
- ・ 環境構成の大切さを学んだ。
- ・ 子ども達に示す場合、視覚的にわかりやすい目印や説明が大事であることが分かった。
- ・ 繰り返し行う事の大切さを知った。
- ・ 見守ることの大切さを知った。
- ・ 肯定的な言葉がけの大切さを知った。

2) 今後に向けての思い

- ・ 今後は、子ども同士のトラブルにどう対処すべきかを学びたい。
- ・ 保育の活動において、内容やアイデアの幅をもっと広げられるようになりたい。
- ・ 異年齢の子ども達への対応をどのようにしていくかが課題である。
- ・ もっと子どもたちとの関わりを増やしたい。

考察

今回の『実習後の振り返りアンケート』から注目したい点は、3年生、4年生ともに「ペープサート・（パネル・エプロン・手袋）シアター」の実施と、「ピアノの弾き歌い」の実施が結果としては納得いかないものであったと答えていたことである。本人の努力不足もあったかと思われるが、実習園の都合などもあり実施が不可能だったことも、実習後の反省点から明らかである。結果から、学生自身が多くの学びを得て次のステップに向かっていくことも反省点の中にあった。今後は本学で保育士資格取得を得て保育関係の現場で生かしていくと共に、さらに、ステップアップした資格取得も考えていく二刀流、三刀流の時代ではないかと考える。

令和5年度と令和6年度においては、実習人数や実習園の方針等の違いもあり結果の全てを比較することは難しいため、可能な部分と傾向を挙げることにする。

令和5年度においては、「事前に立てた目標達成度」・「手遊びの実施」・「絵本（紙芝居）の読み聞かせ」において「大変よくできた」「よくできた」の割合が高かったが、「ペープサート・パネルシアター等」・「ピアノの弾き歌い」「指導案作成」の各実施において、「できなかった」「全くできなかった」の割合が高い傾向が見られた。

「実習全体の振り返り、「今後に向けての感想」において、令和5年度のⅠAと令和6年度のⅠAにおいては、初めての保育所実習ということもあり、「保育技術の向上」「読み聞かせの工夫や手遊びのレパートリーを増やす」という部分について共通していた。

令和5年度のⅠAに臨んだ学生のうち、7名は令和6年度のⅡに臨んでおり、振り返りアンケートの7項目（4段階の評価）のうち、5項目（1. 事前に立てた実習目標達成度・2. 「手遊び」の実施・3. 「絵本（紙芝居）の読み聞かせ」の実施・6. 「指導案作成」について・7. 「研究保育（責任実習）」の実施）については、「大変よくできた」「よくできた」の割合が高くなった。実習園は異なるものの、2度目の実習ということもあり、前回の学びを生かしながら臨むことができたことが理由と考えることができる。

「前回より気持ちに余裕をもって積極的に取り組んだ結果、充実した実習となったこと」、「子ども達の反応を拾いながら笑顔で手遊びができたこ

と」、「保育者として就職することを見通し、保育教材を増やし実習での実践に繋がれたこと」、「子どもの姿や興味に沿った内容、配慮を考えた指導案作成ができたこと」などの記述があった。

一方で、4.「ペープサート・パネルシアター等」の実施・5.「ピアノの弾き、歌い」の実施については、2度目であったものの、1度目からの向上があまり見られなかった。この部分においては、実習園の方針もあるが、保育技術として必要な力であると考えているため、学生本人の努力はもちろんのこと、児童文化財の活用・技術向上については、可能な限り関係科目において指導をしていく必要がある。

「保育実習に臨むため」という理由だけではなく、保育者としての技術習得のために、1年次から関係科目において教材製作や実践の機会を多く設定し場を踏む経験を整えることが今後の課題である。

以前から懸念されていた「少子・高齢化2025問題」が、ついに「保育の2025年問題」となってきた。少子化であるのになぜ保育者が足りないと言われるのか。共働きが増加し、延長保育、夜間保育、深夜保育、休日出勤など保育の業務が多様化し、保育士を取り巻く現況はどんどん変わってきていることが考えられる。結果として、保育現場では一人ひとりの保育者の負担が増えて、保育の質の低下が起きる原因にもなっていると言われる。地方においては少しずつ待機児童の減少はあるが、大都市においては変わらず待機児童問題は解決しておらず、解決のためには保育施設や保育所の増加が求められている。令和6年4月1日、「子ども家庭庁」が待機児童を解消できなかった要因の一つとしてとして、上位要因になかには、『保育人材の確保が困難(46.1%)』を挙げている。保育者不足に対応するためには、現状を考えると保育者の仕事内容は保育で子どもをサポートするばかりではなく、保育の業務以外に必要なスキルや知識を補うために、マルチの能力を身に付けることが必要ではないかと考える。たとえば、「保護者対応が苦手だ」という現場の保育者の声を耳にする時がある。常に保育者は学びの姿勢が必要であり、保護者対応では「相談業務」の学びが必要である。相手の感情や心理面に配慮した言葉の応答に心掛けなければならない。また、園の管理や施設状況から今後、多くのデジタル化はもとより、人員削減を考えられ、諸機械の導入など

も考えられる。これからの保育者は、そのような知識や技術も備えていかなければ難しいのではないかと考える。本人の努力次第で保育士の資格をベースにした新しい資格の取得も努力次第で可能になるのではと考える。たとえば、保育ソーシャルワーカー、医療保育専門士、運動保育士、放課後児童支援員、育児セラピスト等が考えられる。

本学は都城市にあり、今年度も「日本で住みやすい町・移住の町」として、全国1位となった(令和6年12月18日テレビ朝日グッドモーニング発表で、昨年17位から1位に)ことが発表された。都城市をあげて「子育て支援」に力を入れており、【3つの完全無料化】を挙げている。それは、【1. 保育料の完全無料化、2. 中学生以下医療費の完全無料化、3. 妊産婦の健康診査費用の完全無料化】を謳っていること、その他「移住応援給付金」をはじめ、市内の保育所などに「保育士等として就職する」と、「就職支援金+継続支援金」などの人材確保に向けた支援事業がなされている。ぜひ、有資格の卒業生に一考していただき、身近にある恵まれた環境を本学の卒業生として十分に活用し活躍してほしいと願っている。

参考文献

- 松原康雄・村田典子・南野奈津子編集 子ども家庭支援論 第2版 2023 中央法規
- 子ども家庭庁 保育所等関連状況取りまとめ(令和6年4月1日)及び「新子育て安心プラン」集計結果 2024年8月30日 概要資料 令和6年4月の待機児童数調査のポイント 待機児童を解消できなかった要因
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/4ddf7d00-3f9a-4435-93a4-8e6c204db16c/490e7d02/20240830_policies_hoiku_torimatome_r6_06.pdf
- 令和6年12月25日確認
- 井上理 子育て「3つの完全無料化」への思い 池田市長が語る「人口減少対策」【後編】 2024.08.23.
- Think 都城 深く多面的に、考える。 人口減に克つ #03
<https://think-miyakonojo.jp/article/10094/>
 令和6年12月25日確認
- 「移住で500万円、保育園無料 『ふるさと納税』活用 子育て世帯呼び込む宮崎県都城市」「日本で住みやすい町・移住の町」 テレビ朝日

西田 雅美：保育実習後に見えてくる学びと展望(2)

羽鳥慎一モーニングショー 令和6年12月18
日放送